

# 2008年に北海道で発生した森林昆虫

う え だ あ き ら はら ひ で ほ お の で ら けん すけ  
 上 田 明 良<sup>1)</sup>・原 秀 穂<sup>2)</sup>・小野寺 賢 介<sup>3)</sup>

(2010.6.5 受理)

## はじめに

北海道内における2008年の森林昆虫の発生状況を取りまとめたので報告する(表-1, 2)。本報告の情報は、北海道水産林務部森林整備課が収集したデータ(北海道水産林務部森林整備課, 2009)、森林総合研究所森林病虫獣害データベース情報、森林総合研究所北海道支所と北海道立総合研究機構林業試験場が行なった調査および著者らに直接寄せられた情報による。森林総合研究所森林病虫獣害データベース(ホームページアドレス: <http://150.26.105.86/index.htm>, ユーザー名: AllUser, パスワード: alluser)には、2008年の虫害として、東京大学千葉演習林の井口和信氏による富良野市でのイチイカタカイガラムシの被害、檜山森林管理署の森脇晃氏によるオオトラカミキリの被害、上川南部森林管理署の大塚優佳氏によるカラマツハラアカハバチの被害、網走中部森林管理署の片桐勝美氏によるヤツバキクイムシの被害情報が登録された。このデータベースはどなたでも上記のユーザー名とパスワードで閲覧可能であるが、ウェブ上での情報入力には予め個別のユーザー名とパスワードの取得が必要なので、事前に当該都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者に連絡されたい。また、従来の専用ハガキでの情報提供も随時受け付けている。ハガキをお持ちでない方は、森林総合研究所および都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者または(助)林業科学技術振興所に連絡をいただきたい。読者からのなるべく多くの情報提供を切望している。本報告に先立ち、発生情報をお寄せ頂いた関係各位にお礼申し上げる。

## 2008年の発生の特徴

2007年に6,608haと6年ぶりに5,000haを突破したカラマツ食葉性昆虫の総発生面積は、2008年はさらに倍増し、12,214haに達した。12,000haを突

表-1 2008年所管別トドマツオオアブラムシとエゾマツオオアブラムシの発生状況

所管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ	
	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)
国有林		11.88		94.14
道有林	213.12	213.12	147.84	147.84
民有林	0.00	0.00	61.62	61.62

表-2 2008年に発生した森林昆虫  
 (トドマツオオアブラムシ・エゾマツオオアブラムシは除く)

昆虫名	加害樹種	発生地(市町村)	発生区域面積(ha)	備考
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	釧路市	4.48	
		ニセコ町	8.96	
		真狩村	79.13	
		留寿都村	6.00	
		喜茂別町	110.11	
		京極町	7.72	
		倶知安町	3.32	
		赤井川村	21.11	
		小樽市	203.60	
		社管町	181.50	
		伊達市	671.04	
		厚真町	32.17	
		むかわ町	1,009.80	
		苫小牧市	120.51	
		平取町	2,028.99	
		日高町	1,215.47	
		新冠町	191.06	
新ひだか町	303.72			
浦河町	259.89			
様似町	335.71			
えりも町	84.92			
千歳市	2.28			
北広島市	6.16			
札幌市	2,917.17			
岩見沢市	20.64			
三笠市	12.48			
栗山町	8.60			
美瑛町	84.00			
中富良野町	43.24			
富良野市	43.88			
南富良野町	59.08			
占冠村	193.11			
大樹町	290.00			
広尾町	1,562.00			
マイマイガ	カラマツ	深川市	7.26	
		グイマツ陸種F1	5.66	
		岩見沢市	4.00	
		グイマツ陸種F1	3.15	
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	苫小牧市	2.00	3本が枯死
		千歳市	3.70	16本が枯死
		興部町	2.72	
ヤツバキクイムシ	エゾ・アカエゾマツ	苫小牧市	16.00	139本が枯死
	エゾ・アカエゾマツ	千歳市	59.80	368本が枯死
	アカエゾマツ	置戸町	47.29	
	エゾマツ	雄武町	12.16	
	アカエゾマツ	滝上町	12.16	
	アカエゾマツ	紋別市	3.08	
	アカエゾマツ	西興部村	6.48	
オオトラカミキリ	トドマツ	上ノ国町	3.06	
イチイカタカイガラムシ	イチイ	富良野市	-	庭木で発生
ハンノキハムシ	ハンノキ	道央~道東の	-	小樽市から弟子屈町にかけての低地で連続的に発生
	シラカンバ	各市町村と函館市	-	

破したのは、道東のオホーツク海側でニホンカラマツヒラタハバチが大発生した2001年以来となった(尾崎・原, 2004)。種別にみると、99%がカラマツハラアカハバチの被害で、残りはマイマイガの被害であった。カラマツハラアカハバチは、1995~2002年に道南で大発生し、2003年に一端収束したかにみえたが、場所を変え2004年から道央で発生し、2008年まで被害市町村数と被害面積が毎年増加してきた。2007年は25市町村3,350haであったが、2008年は道東の大樹町と広尾町にまで広がり、34市町村12,122haに達した。今回の被害は発生から5年目であり、道南での被害が8年間継続したことを考慮すると、今後も被害が継続するものと思われることから注意が必要である。ただし、本種および次種マイマイガによる食葉被害は、カラマツの生長を遅らせることが知られているが、枯死に至ったという報告はわずかしかない(宮木・東浦, 1991; 古田, 1994; 北海道立林業試験場森林保護部, 2010; 北海道立総合研究機構林業試験場, 2010)。

北海道でのマイマイガ(写真-1)の大発生は、これまで11年内外の周期で、場所を変え生じてきた(北海道立総合研究機構林業試験場, 2010)。今回の発生は、2002年の道北日本海側での発生以来のものである(上田ら, 2004)。2002年は広葉樹への被害であったが、今回はカラマツから報告された。マイマイガはきわめて広食性の種であり、カラマツ以外にも広葉樹での被害も潜在的にあると考えられる。森林被害としての報告は空知だけであったが、市街地の街灯に群がる成虫が、空知

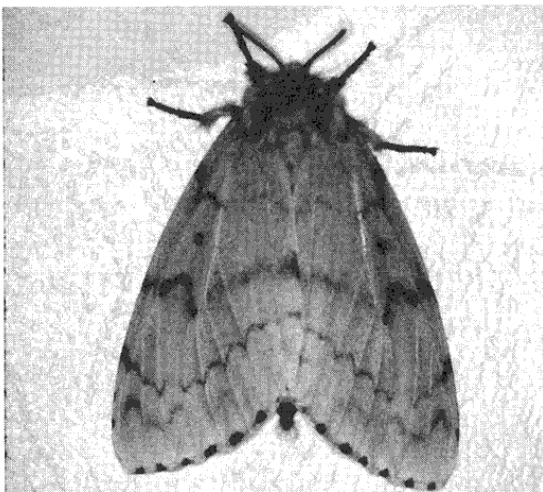


写真-1 マイマイガ

だけでなく後志、日高、十勝のいくつかの市町村で観察されたことが新聞等で報じられ、筆者らにも問い合わせが相次いだ。なかでも十勝での大発生は初めてのもので、今後の被害推移に注意が必要である。マイマイガの大発生はふつう1~4年で収束する(北海道立総合研究機構林業試験場, 2010)。

カラマツヤツバキクイムシについては、2004年台風18号の風倒地において2006年から道央を中心に被害が生じている(上田・原, 2008)。2008年の被害は、2007年から減少した。風倒木で増殖したヤツバキクイムシ類の個体数密度がもっとも高くなるのが風倒から2・3年目であり、これによる生立木枯死被害のピークはその翌年(3・4年目)に生じることが知られている(上田, 2006など)。2008年は風倒から4年目であることから、2009年はさらに減少すると考えられる。

ヤツバキクイムシによる被害も多くは2004年台風18号風倒地でのもので、カラマツヤツバキクイムシ被害と同様に2007年よりもわずかながら減少した。置戸町の被害は、38年生のアカエゾマツの切り捨て間伐木で発生したもので、立木枯死被害は確認できなかった。雄武町は奥幌内天然林の被害で、ここでは2004年台風18号による風倒後、さらに2006年10月6日にも低気圧による風倒が生じ、風倒木で増殖したヤツバキクイムシによって枯死被害が生じた(高野幸彦氏, 北海道オホーツク総合振興局西部森林室私信)。

オオトラカミキリは、我が国のトラカミキリ類最大の種で、全国に広く分布するが、個体数が少なく、マニアにとって羨望の的である。しかし、胆振東部から道南にかけてでは、樹勢の衰えた林分や手入れの遅れたトドマツ人工林で、枯死や材質劣化をもたらす害虫とされている(上条, 1994)。本種幼虫による食害は、樹皮下で渦巻き状に行われるため容易に判別でき(写真-2)、被害から数年を経ても、円形に黒ずんだ被害痕が生立木の幹表面に残る。上ノ国町の被害地は52年生のトドマツ人工林で、枯死被害はわずかだが、間伐遅れで生じた被圧小中径木で被害が発生し、一部の大径木にも被害が及んでいた(尾崎研一博士, 森林総合研究所北海道支所私信)。

このほか、イチイカタカイガラムシの被害が富良野市で記録された。本種はヨーロッパ原産

で、1990年頃に帯広市で初めて記録されて以来、道央、道東、道北の各地に急速に広まった。庭木用のイチイの移動により分布が拡大したと考えられている(尾崎, 1996)。本種による被害が連年同じ木で生じると、枯死することがあるので注意が必要である(井口和信氏, 東京大学千葉演習林私信)。

広葉樹の被害として、筆者らは、ハンノキハムシの被害を道央から道東にかけての低地のハンノキおよび一部のシランカバで観察した(写真-3)。また、函館市でも発生しているという情報が得られた。本種による小規模の被害は2000年にみられたが(尾崎ら, 2001), 今回のような大規模な被害は、1988年以来20年ぶりである(小泉, 1990)。

表-2には示していないが、面積不明な被害情報として、美幌町のツガカレハ(カラマツ), 北斗市と岩見沢市のクスサン(トチノキなど), 美

唄市のカシワマイマイ, 本別町のマエアカスカシノメイガ(アオダモ苗木), 下川町のヒメシロモンドクガ(カラマツ・ミズナラ4年生林)が寄せられたことをあわせて報告する。

(<sup>1</sup>)森林総合研究所北海道支所, (<sup>2</sup>)北海道立総合研究機構林業試験場道東支場, (<sup>3</sup>)北海道立総合研究機構林業試験場)

## 引用文献

- 古田公人(1994)マイマイガ. 小林富士雄・竹谷昭彦編著「森林昆虫, 総論・各論」, 279-282, 養賢堂, 東京.
- 北海道立林業試験場森林保護部(2010)カラマツハラアカハバチの特徴・生態・被害について, 8pp, 美唄.
- 北海道立総合研究機構林業試験場(2010)マイマイガの生態・被害・防除Q&A, 18pp, 美唄.
- 北海道水産林務部森林整備課(2009)平成20年度北海道森林保護事業実績書. 91pp, 札幌.
- 上条一昭(1994)オオトラカミキリ. 小林富士雄・竹谷昭彦編著「森林昆虫, 総論・各論」, 180-181, 養賢堂, 東京.
- 小泉 力(1990)平成元年度・北海道に発生した森林昆虫. 北方林業42: 287-292.
- 宮木雅美・東浦康友(1991)グイマツ雑種F1はカラマツハラアカハバチにも強い. 北海道の林木育種34: 27-30.
- 尾崎研一(1996)イチイに新たな害虫イチイカタカイガラムシ. 森林保護256: 41-43.
- 尾崎研一・原 秀穂(2004)2001年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業56: 34-36.
- 尾崎研一・原 秀穂・林 直孝(2001)2000年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業53: 229-231.
- 上田明良(2006)大規模風倒後のヤツバキクイムシ類による生立木被害とその予防法-2004年18号台風とこれまでの台風の比較-. 日森林北海道支論54: 156-159.
- 上田明良・原 秀穂・小野寺賢介(2009)2007年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業61: 133-136.
- 上田明良・原 秀穂(2008)2006年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業60: 101-103.
- 上田明良・尾崎研一・原 秀穂(2004)2002年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業56: 85-86.



写真-2 オオトラカミキリ食痕

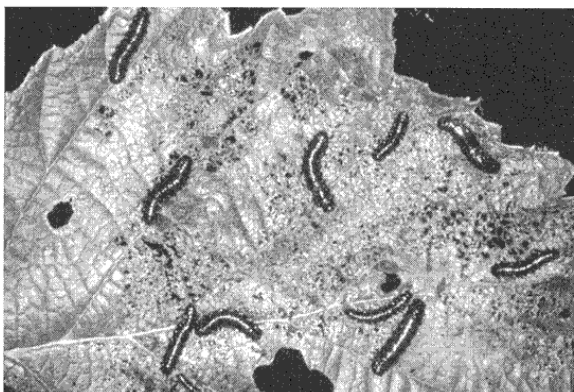


写真-3 ハンノキハムシ幼虫